

## IACR2010 ポスター賞を受賞して②

丸亀 知美、味木 和喜子

国立がん研究センター がん対策情報センター  
がん情報・統計部

IACR の最終日には、毎年恒例のポスター賞の発表があります。ポスター賞のプレゼンターは、デンマークがん登録の Hans H. Storm 先生です (写真)。カラクちなコメントとユーモアを交えて、まずはポスターの作り方を教授してくださり、最後に今年のポスター賞が発表されます。Storm 先生は、私が IACR に参加したこの4年間、ずっとポスター賞のプレゼンを担当されています。ご本人はプレゼンターを後進に譲りたいようですが、このユーモアたっぷりの発表を引き継ぐ方は少々負担かもしれません。

さて、今年も、例年の様に Storm 先生のコメントを楽しみつつ、IACR の組織委員としてカメラ片手に記録用の写真もとりながら、ポスター賞に関しては他人ごとの様に聞いていました。すると見たことのあるポスター (自分のポスターです) がスライドに映し出されました。どうやら受賞した様です。

今回、私たちは第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究」班が行った第1期から第3期の事前調査結果をまとめました。内容が多いため、第1報、第2報に分け、それぞれ味木先生、私が筆頭演者として発表しました。連番で2ポスター分のスペースをいただいたので、2枚でストーリーが完結する様に作成しました。文字も少なくスッキリとした見やすいポスターになったのが良かったのか、それとも2枚とも赤のカラーで統一していたため目立ったのかよくわかりませんが、ポスター賞を



IACR2010 ポスター賞  
プレゼンター、  
Hans H. Storm 先生

いただく事ができました。

皆様からの多大なご指導、ご協力を得て、日本の地域がん登録の整備は、第3次対がんの間に目に見えて進んでおります。6年間にわたる3回の調査で、その成果が明らかになった点が評価されたのかもしれませんが、しかしながら、法的整備を含め、まだまだ課題は残っております。「日本の地域がん登録の更なる今後の発展に期待賞」と自分では解釈しております。

## 登録室紹介—高知県

安田 誠史

高知大学教育研究部医療学系連携医学部門

### 1. 歴史

高知県地域がん登録は、1973年に、高知県医師会によって、大阪府立成人病センター調査部の技術支援を受けながら開始されました。老人保健法でがん検診の精度管理に必要な仕組みとされてからは高知県が実施主体となり、県医師会への委託事業になりました。がん検診補助金が一般財源化されてからは、県医師会を実施主体とする県の調査研究事業として継続され、健康増進法で県が生活習慣病の罹患実態の把握に努めることになったのを機に、2006年度から再び高知県が実施主体の事業になりました。2008年度までは高知県医師会が委託機関を務めていましたが、専任スタッフの確保が困難となっていたため、2009年度からは、県がん診療連携拠点病院である高知大学医学部附属病院を委託機関とし、登録室機能の強化に取り組んでいます。

### 2. 組織と運営

高知大学医学部附属病院では、医療サービス課診療情報管理室に地域がん登録事務局が置かれています。診療情報管理室に所属する診療情報管理士3人と事務員3人の全員が、地域がん登録と拠点病院院内がん登録の両方の作業に従事しています。また地域がん登録作業のまとめ役を務める診療情報管理士1人と事務員1人とで、全国がん罹患モニタリング集計のためのがん罹患データの作成を行なっています。医学部所属の医師1人 (専門は公衆衛生学分野) が、必要に応じて